

計画部長として、九州においでになったのは平成6年のことでした。

それまでの研究成果が高く評価され、平成8年に九州大学農学部農政経済学科の教授に着任されました。先生がお持ちだったのは、煌煌たる研究業績だけでなく、バランスのとれた意思決定力や卓越した管理能力でした。九州大学在任中には、日本農業経営学会、農村計画学会の会長をお務めになったり、県や市町村など地方自治体の都市計画や農村振興計画策定の委員会でお務めになったりと、学界のみならず社会でも御活躍されてきました。

先生は、長い目で成長を見守ってくれる教育者でありました。農業経営学研究室では、ときに優しく、ときに厳しく、私たちを導いてくださりました。先生が九州大学、東京農業大学で御指導された学生・院生をはじめ、多くの教え子たちが、日本国内のみならず中国、韓国、ベトナム、カンボジア、ブルガリア、ケニアなど世界中の学界、社会で大活躍をしています。

先生は、広い視野を持った研究者でもありました。農業経営政策研究、合理的な農地利用研究、農村計画研究、開発途上国研究の4つの研究課題を御自身に課してこられ、多くの輝かしい実績を残してこられました。特に、農地利用と農村計画に関する研究には、並々ならぬ御努力をなされ、情熱を注いでこられました。

先生は、音楽を愛し、家族を大切にされる温和人柄でありました。今ここに、先生の九州大学退職

に際しての思い出・記念誌『夢を追って』を開いてみると、次のような言葉を残されています。

一つ、他人を許し、他人への思いやりと優しさを持ちながら、人生に勝つこと

一つ、いつも心を閉ざすことなく、そして夢をなくすことなく、愛を忘れない人生を歩んで欲しいこと

一つ、「唇に歌を持ってほしい」こと

先生のお人柄がよく表れた、そして、終生大切にしてくられた生き方が集約された金言であると感じます。

先生の訃報に接したのは、平成25年2月18日のことでした。先生の強い希望により、葬儀は家族葬(音楽葬)で行われたそうで、納骨まで完了した後の御報告となったそうです。お別れの会や香典なども一切希望されないということで、そのような経緯を聞いた時には「とても先生らしいな」というような思いが心中に去来したのを覚えております。

いま一度、先生とお話したい、教えを受けたいと切望しても、詮方ありません。しかし、先生の厳しく優しく、そして温かい教えは、御薫陶を受けた多くの方々の心の中に、未来永劫、生き続けていくことでしょうか。そして、先生の教えを今後に生かしていくことこそが、先生の御恩に報いることになると考えております。

ここに、生前いただいた辻雅男先生の御指導に改めて深く感謝し、御冥福をお祈りし、謹んで弔辞を捧げます。

故辻雅男先生への追悼文

西 和盛(平成18年博士修了)

農学博士辻雅男先生、謹んでご逝去を悼み、九州大学の教え子を代表して、生前の御指導に対し、改めて深く御礼申し上げます。

先生は、昭和38年に東京農工大学をご卒業され、東京大学大学院に進学なさいました。研究者として

の高い資質と将来性を囑望され、昭和48年に日本学術振興会奨励研究員となられ、昭和49年に研究員として農林省に入省、FAOに出向なさるなど精力的に研鑽を重ねてこられました。九州農業試験場(現・農研機構九州沖縄農業研究センター)の農村